

環境都市常任委員会

(令和6年8月19日)

環境都市常任委員会

午前 11 時 36 分 開会

○大野祐司委員長 ただいまから、環境都市常任委員会を開会します。

本日の会議は、タブレット端末に掲載した日程により進めてまいります。

それでは、2、協議事項、(1)、人手不足の状況下における持続可能な地域経済の活性化についてを議題といたします。

前回の協議会の中で、皆様から原因分析に対する戦略につきまして、御意見をいただきました。

正・副委員長で分析と戦略を取りまとめたものが資料1となります。

資料1につきまして、議会局より説明をお願いします。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、正面のモニターを御覧ください。

まず、人手不足感が現実のものとして起きているか否かの確認や、程度、秦野市の位置等の確認のため、人口推計を調べ、生産年齢人口の減少が著しいことが確認できました。

加えて、人手不足DIの過去10年間の推移を確認すると常にマイナスの数値となっていることが御確認いただけるかと思います。

デジタル庁が行っている地域幸福度（Well-being）指標によると主観と客観の両方から下位にあることが分かり、他市との比較においても本市での大きな課題となっているため、人手不足の状況下における持続可能な地域経済の活性化について、政策提言することは意義のあるものだと言えるかと思います。

以上を踏まえて、以前の協議会の中で委員の皆様からいただいた人手不足における原因が、特性要因図に記載されているものになります。

人手不足DIをグラフにすると、上昇傾向にある業種では、多様で柔軟な働き方への支援、下降傾向にある業界では、働く人を補助するものへの支援や人に代わるものへの支援と区分けすることができると思います。

それぞれの具体的な対策が次の資料になります。

ここで、市の総合計画での位置づけを確認すると、雇用、就労への支援の充実は、工業振興の枠組みの中でしか捉えられていないため、今回皆様で行っていただいている政策提言は、より広い雇用分野で捉えているため、大変意味のある提言に向かっていることになるかと思います。

今後、働く人が増えすぎてしまった場合には、地域の担い手がいなくなってしまう可能性が考えられますが、地域貢献活動に対して、電子地域通貨のポイントを付与することによって参加者が増えることが期待できる部分があるのではないかと思います。

以上がこれまで委員の皆様にご協議いただいたことを、正・副委員長と取りまとめさせていただいたものとなります。

○大野祐司委員長 議会局より説明がありましたが、このほか、追加したい事項等は、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○大野祐司委員長 それでは、今後、追加したい事項がございましたら、8月中旬に議会局へ御提出ください。

それでは、本日は、議会報告会の相手先につきまして、協議したいと思います。

まず、資料2を御確認ください。

これまでの協議を踏まえて、秦野市農業協同組合、西湘地域連合及び秦野商工会議所の各部会を提示させていただきました。

環境都市常任委員会の委員数を勘案すると、4団体にお声かけさせていただくのがよいと思いますが、皆様の御意見はいかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○大野祐司委員長 それでは、正・副委員長で相手先の調整をさせていただきますので、御承知おきください。

次にその他ですが、皆様から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○大野祐司委員長 それでは、次回の政策提言に向けての常任委員会は、10月16日・水曜日の議員連絡会終了後に開催したいと思います。

以上で、環境都市常任委員会を閉会いたします。

午前11時42分 閉会

環境都市常任委員会委員長 _____